

## 平成 30 年度 第 2 回図書館協議会 会議録（案）

- ◎開催日時 平成 30 年（2018 年）10 月 11 日（木）19 時～21 時  
◎開催場所 野洲図書館 事務室  
◎出席者 早川久登委員、松山裕子委員、川端初美委員、國松完二委員、五十嵐芳子委員、遠藤正一委員、高野真知子委員、増田多美子委員、吉野澄子委員  
（委員 合計 9 名出席）教育部次長、図書館長、専門員（司書）  
欠席委員 1 名（築山委員）  
傍聴者 なし

### \*配布資料について

ここに掲載した以外の資料については、図書館本館および中主分館で、図書館協議会議事録とともに公開しています。

## 1. 開 会

## 2. 議 事

### （1）図書館評価について

【事務局】（資料に沿って説明）

【会長】質問はありますか。

【委員】守山市の図書館が開館します。守山の図書館が閉まっている分、野洲図書館が利用されていきました。11 月以降、どう利用されるか。守山の利用者が守山へ戻り、野洲の人が守山へ行くのも両方あり得ます。湖南 4 市では本の貸出冊数は守山が少ないが、住民一人当たりの貸出冊数の県平均 7 冊は越したいと思っているはず。4 市では野洲が一番多い。草津・栗東で 9 冊ぐらい。物珍しさもあるだろうし、野洲の人がどう動くかで数字にも影響してくると思います。どのようになると考えていますか。

【館長】開いてみないとわからない。今は守山の人が約 10 万冊、野洲を使っています。守山の新しい図書館はとてもきれいで、席もたくさんある。カフェもあって、見晴らしもいい。一日過ごせるほど環境がいい。守山の人には当分野洲には戻ってこないかもしれない。野洲市民が守山に行ってしまったままでは悔しいので、図書館は中身が大事なので、本の見せ方など地道に努力していきたい。

【委員】野洲の棚の特集や棚づくりについては、いつも惜しいと思います。もう一工夫、表紙を見せる本とか、もっと特色を出したらよいのではないですか。例えば蒲生図書館は、面白い本の見せ方をしているので、いつも楽しみです。図書館なので、書店レベルまでは難しいとは思いますが、店長のおすすめとか、私のおすすめ、スタッフの名前を出すだけでも違うと思います。もっと、こう面白かったとかコメントをつけるとか、平ななめ置き（表紙見せ）とか、棚の列ごとに担当を決めてもいいのではないのでしょうか。この棚の〇〇さんのコメントを出す、中身の勝負で、もっと面白くなる。特集も、もっとぐいっといってもいいと思います。個人的感想でポンと出す方が面白い。

【委員】図書館のお便りで紹介している本を、お便りといっしょに特集コーナーに出すとかの工夫をすれば、もっと手にとってもらえるのではないのでしょうか。

【委員】守山の図書館は、美しく、カフェもある。一時は珍しいので、行かれる方も多いと思いますが、基本は、図書館は物見遊山ではなく、本と出合いたいから行く。今言われたように、野洲図書館の顔をもっと前面に出す、職員の個性が感じられれば、おらが町の図書館として愛されるようになればいい。欲しいのは本、職員と本によってつながっている図書館。職員が薦めている、面白かった、という流れが出ればよいのではないのでしょうか。評価をしながら、もっと身近な図書館にすればいい。

【館長】職員が本を薦めるということについては、どこまでやっていいか躊躇するところです。昨年の秋の図書館まつりのときには各職員が薦める本を紹介しました。ただ、私たちは公務員、役所なので、おすすめ、推薦、という言葉を使うのはためらうものがあります。本屋のように個人名を出すのはよいのかどうか。

【委員】ニックネームでいい。職員のどなたということではなくても。そんな風に薦めてくれるという押しが欲しい。顔が見えなくても、職員が感じられれば。

【委員】絵本の棚の表紙見せについて、何を基準に誰が選んでいるのか、前から聞きたかった。きっと職員がテーマを持って出しているのだろうと推測するが。そこが分かれば楽しいと思います。

【委員】蒲生図書館は、本を平置きしている少し横に「今回はこういうテーマで選んでみました」というコメントを出していて、ひきつけられる。何か少し、オススメでなくても、何か、伝わるように手法を考えてほしい。職員の見方が出ると面白い。

【館長】野洲では、それぞれの棚の担当はいます。ただ、今、棚の上に表紙見せしている本は、棚に入りきらなくて、新しい本や話題になった本を出しているだけの棚もあります。今後は、(コメントをつけて本を出すこと等は)全部の棚でなくても、できればと思います。絵本の棚については、表紙見せの本はどんどん貸出されるので、テーマで出しているのではなく、今月は書名のA行、カ行の本を出す、というように出しています。

【委員】全部は無理だろうから、ところどころでもいい。野洲図書館の色を出していけば面白くなると思います。

【会長】それでは視点を変えます。今回の評価目標値は残念に思います。評価がCになっている項目は仕方ないにせよ、Aになっているものは平成29年度の実績よりも上げるべきではないですか。Aは野洲の得意としているものです。それをあまり伸ばそうとしていないように見えます。どこが得意でどこが苦手かが見えない。平成29年度の数字は突発的なものなのかどうか。お話会の参加人数の目標値は、中主でのお話会を増やしたりするのだから、増やしてもいいのではないですか。

【委員】(郵送・宅配の貸出の目標値設定について)長浜市は郵送の手段を使わないと本が届かない。長浜と比較して目標値をもっと上げないというのは、違うのではないのでしょうか。

【館長】長浜市のように広い自治体なら郵送や宅配については野洲よりも、もっと希望があるはずだと思いますが、それほど利用者がいない。(長浜市で実利用者10人なので)野洲の目標値は(対象人数の)1%の18人にしています。2%にすると36人になる。現実的に考え、とりあえず1%を目指すということにしました。お話会の目標人数は少ないのでしょうか。ボランティアの主催分は含まずに、職員が努力してできるように、職員が実施したお話会に限って算定しました。

【委員】ボランティアとの連携事業としてそれも数に入れればいいのではないですか。

【館長】目標数値として他の要因が大きすぎることになります。

【委員】連携事業として利用を増やすということになぜならないのですか。市民活動団体を巻き込んで増やしていくということもできるのではないですか。

【委員】お話会の参加人数の目標値は、昨年度の実績が3,437人なのに、なぜ減ったのですか。

【委員】目標値が3,000人でいいと考えた根拠はなんでしょうか。(平成29年度の数値は増えていますが)これがあつたから増えた、ということがあれば、それがあれば増えるということではないですか。

【館長】昨年度は、学校からの出張お話会の要望が多かったため、参加人数が多くなりました。

【委員】図書館のことなので館内のおはなし会だけということにしてはどうですか。学校は関係者によって変わっていくので。

【委員】条件、中身がこうだからということがはっきりとわかるようにした方がよい。外部が多かったからか、内部の数字をとっているとか。

【館長】目標値は館内でのお話会の参加人数として、参考数値として全部の数値を出すというのはどうでしょうか。努力がどう出たか見えやすい。

【委員】職員の努力が見える数値とするということですか。

【委員】項目5の団体貸出の貸出数は、昨年度増えているのになぜ目標値は低いのですか。

【館長】団体貸出については、制限冊数を50冊から100冊にするとか、増やせる手立てはあります。ただこれをすると、棚から本がなくなってしまう個人利用に支障が出ることが考えられます。

【委員】子供が本と接する機会がそれだけ増えるということではないですか。なぜ、増えているところを伸ばそうとしないのですか。

【委員】子供が本を読まなくなっているこの状況をどうとらえるかということではないですか。図書館としてそのことについて何もやらないということでしょうか。

【館長】実際には制限冊数を増やして欲しいとはいわれていないのですが、団体貸出で、学童等は、50冊きっちり借りていかれるので、増やせば借りられるのではと考えます。

【委員】(個人利用の支障については)団体貸出は貸出期間が長いので、その弊害はありません。

【委員】目標値を減らすということなら、制限冊数が50冊、100冊、何冊がベストなのかは実験してみないとわからない。館内で借りる人が減っているとういうこともあるので、一人でも多くの人に本を届けてほしい。

【館長】団体貸出で、学校やいろいろな人に貸出はしたいと思います。学校は先生によって変わります。先生が図書館に借りに来なければならないのですが、18時までに来るのは大変です。学校向けに団体貸出用のセットを用意しており、これは個人利用とは関係ないのでどれだけでも貸したい。こちらから学校へもって行ければ増えるとは思いますが、6校全部回れるかという点と難しい。

【委員】以前は20時まで図書館が開いていたので、先生がゆっくり来ることができたということもあります。

【次長】学校は8時半から夜まで勤務があり、先生が日中に図書館に来る時間は厳しい。学童は子供が来るまでの時間が使えるので来られます。学童は制限冊数を増やしてほしいと思っているのか、何冊借りたいのか、たとえば、50冊なのか60冊なのか、100冊で3週間がいいのか、ユーザー側の調査が必要なのではないですか。28年度と29年度についても事務局が分析をきちんとしたうえで説明できるようにしないとイケなかった。

【館長】調査と分析を行います。

【会長】目標は今日決めますか。

【館長】できればそうしたい。

【会長】平成34年度の数値の見直しはできるのですか。

【館長】できます。

【委員】では、34年度の数値はおいて、(今年度の数値について実績が出てから)妥当性を検討することはどうですか。

【委員】評価で数値目標を掲げる以上は、下回る数値を出すことはできない。実績があればなお下回れない。冊数ベースでやると変動があるので、利用団体数に切り替えるとかしないといけないのではないですか。5年先の目標をクリアしてしまったら、上方に見直すのが普通です。たとえば項目4の児童一人当たり貸出冊数は、5年先子どもの数が減った中でどうなるのかとか。楽にクリアできる数字を挙げたように見られかねません。

【次長】野洲市では児童数は当面増加傾向にあります。一部の小学校では500人の増加予想があります。

【委員】長浜では子供の数が減っているので、現状を維持するのが精いっぱいです。そういう動きを考慮して設定する必要があります。

【会長】平成34年度に見直すとして、このままいってよいですか。一回やってみて反省した方がいい。

【次長】役所では過去5年10年の実績を出して設定します。これに合うようなデータが無ければ、提示しなければならない。データがないと委員もわからない。学校教育課にきて、児童数の移り変わりなどを見た方がいい。

【館長】データの提示をしてグラフを作成します。

【委員】子ども(の貸出冊数)の減少は全体を見ると大きいですが、大人の(貸出冊数の)減少が実は大きい。子どもの本の購入数は維持できるよう最大限の努力をしているが、大人の減少が大きな影響があります。

【委員】高齢者が増加しており、高齢者は家の中でテレビをずっとみているとか、本との出会いが少なくなってきました。中主のコミセンあたりにも本があるといいと思います。健康を兼ねて少し歩いてコミセンに行き、本を読むという機会を取り戻す。本館に来るのは難しい。

【次長】(コミセンにも図書館で本を置くという業務をするなら)人員、スペースの問題があります。老人人口の増加もありニーズがあれば考えますが、これをするなら図書館の在り方が変わってしまうということもあります。

【委員】図書館は先端の役割を果たしてほしい。

【次長】市全体を見ると人員配置が難しい。コミセンなど声が多ければ考え直す必要もあります。

【委員】そういう意見があるということは行政で受け止めてほしい。拡大していくにはどうすればいいのか、という方向で進めてほしい。予算のことはあるが、ボランティアを入れるとか人的配置も検討してほしい。

【委員】野洲には移動図書館車はないのですか。

【館長】ありません。

【委員】それがあれば高齢者のいる場所に移動図書館という発想もできます。次長が言うような大きな人件費が無くてもできる。高齢者向けの移動図書館、出向して本を持っていくというアイデアもいいのではないのでしょうか。

【次長】東近江や長浜、高島などは施設の補完のために車が必要ということではないでしょうか。考えられないことはない。コミセンは厳しいと思います。ボランティアが本当に動いてくれるのか、また、行政がボランティア頼みになっていいのかということもあります。

【会長】移動図書館は考え方としてはあるかもしれませんが。寄付でもあればよいですが。時間もないので、評価は今回はこのままとし、次回に見直すということにします。

【館長】お話会の参加人数の目標値については、館内の職員のお話会の数値に変更して、目標値は前年度の1割増くらいとします。

【委員】数値の背景がわかるようにしてください。

【委員】上半期の数値は出せますか。

【館長】出せます。変更したものをお送りします。

## (2) 市民活動支援センターの機能移転後の施設の活用について

【事務局】(資料に沿って説明)

【委員】ホールの貸し出しをするのは図書館のカウンターですか。職員の負担はどうですか。

【館長】市民活動支援センターにいた職員が2名図書館に配置されました。受付はカウンターでもしますが、事務室内にも窓口があります。場所の説明が難しいので、初めての人はまずカウンターで受けて、2回目から事務室のほうに回ってもらう予定です。

【委員】初めから事務室の方がいいのではないですか。(事務室の窓口に続く)廊下が開放されていたので、セキュリティのこととか少し不安を感じました。

【委員】ギャラリーの展示内容は、個人の申込も受けていますか。展示内容は、どんなものでもOKしているのでしょうか。先月、非常に気になるものがありました。教科書では使われないような言葉が使われていたりして、公共施設としてどうかと思いました。戦闘機の写真や1930年代の「支那事変」ということば、発射場面、隊員募集など、個人とはいえ公共機関としてOKしていい内容か疑問です。どんどんこういうのが入ってくるのはどうなのでしょう。知り合いの方にも、これはどうなのかと話していた人もいます。個人の自由ということもあるが、何でもOKするのか非常に疑問でした。

【次長】社会通念上よろしくないものは断ります。ただ、表現や思想の自由もあるので難しいところです。今後考えていきたい。

【委員】展示されてからでないかわからないのではどうかと思うのですが。

【次長】禁止するのが適切か判断が難しい。100人いて99人おかしいと考えられるような

ものであれば検討できますが。

【委員】市民活動支援センターから図書館に移管されて、教育機関としてのギャラリーになった。その内容はだれでも自由に許可はしてはいけないのではないのでしょうか。運用は変わってくるのではないかと思います。

【館長】何かを禁止するという事は、よほどのことがないと難しい。

【委員】図書館の管轄が変わったことはチャンスなので、図書館の管轄になって変わったといえるのではないですか。

【次長】基準がどのようになっているか、不服申し立てがあった時に提示が必要となります。ルール作りが必要なので、不備が指摘されると負けてしまいます。

【委員】図書館としてふさわしいのか、個人としても子供が見たり市民が見たり、図書館の信用にかかわるのではないかと思います。

【委員】意図や目的を聞きながら、ある程度社会通念上のふるいにかけていくのがよいのではないですか。

【委員】図書館の管轄なので、社会通念ではなく図書館サービスとしての判断となるのではないですか。図書館の資料提供と同じで、市民活動支援センターの見方とは違ってくるはずです。

【委員】一見戦争賛美に見えても、そうではないこともあります。企画書を見ても、判断は難しい。

【委員】文化芸術に限るのか、検討してはどうでしょうか。

【館長】施設の利用については、“従来通り”利用できることを基本として図書館が引き継ぎました。ここで大きくは変えられません。

【次長】徐々に、図書館にふさわしい、という方向にもっていくよう努力します。いろいろな考え方があるので、思想的な問題に踏みこむのは難しい。

【会長】フリースペースについては、子供たちに占領されている状況ですか。

【次長】長期休みの期間は仕方ないかもしれませんが。クーラーがないなど、いろいろな家庭状況の子どももいるので、使ってもらえればよいと思います。管理上の問題はちゃんとしたい。

【委員】ある図書館では学習室の表示もあります。わりきるなら、きちんと管理した方がよいのではないですか。

【委員】フリースペースを資料の部屋にするということは考えていますか。

【館長】考えていません。陽が差し込むことと、棚が固定できないので書架を置くのは避けた方がいいと思っています。

### (3) 今年度の行事について（報告および案内）

【事務局】（配布資料に基づき説明。夏休みの行事の「一日図書館員」、「化石とあそぼう」展示と説明会、ジョー・オダネル氏の写真展と田中幸子さんのお話、9月開催の図書館のお泊り会「としょかんでないと」について報告。今後の行事の予定として、11月10日の「図書館まつり」、3月の「はやしますみワークショップ」について案内）

(4) 滋賀県公共図書館協議会交流会について

**【事務局】** (11月24日(土)開催予定の交流会について案内)

(5) その他

**【事務局】**

- ・ 全国図書館大会 (10/19-20) での野洲図書館の職員の事例発表について
- ・ 図書館関係新聞記事について説明

**【委員】** 図書館の条例や規則で改正されている内容について教えてもらいたい。

**【館長】** 資料を新旧対照表で用意します。

平成 30 年度 第 2 回図書館協議会 次第

平成 30 年 10 月 11 日 (木)  
野洲図書館 会議室  
午後 7 時～

1. 開 会

2. 議 事

- (1) 図書館の評価について (今年度目標値設定)
- (2) 市民活動支援センター機能移転後の施設の活用について
- (3) 今年度の行事について (報告および案内)
- (4) 滋賀県公共図書館協議会交流会について
- (5) その他
  - ・ 全国図書館大会について
  - ・ 図書館関係記事について

\* 次回の会議予定

3. 閉 会

配布資料一覧

事前送付資料

- ① 図書館の評価について評価項目 (案)
- ② 県図書館協議会交流会開催案内

当日配布資料

- ③ 市民活動支援センター機能移転後の施設の活用について
- ④ 全国図書館大会案内
- ⑤ 図書館関係記事
- ⑥ 図書館カレンダー



平成 30 年 10 月 11 日

図書館協議会用資料

## 市民活動支援センター機能移転後の施設の活用について

野洲図書館と併設している市民活動支援センターは、条例改正により平成 30 年 9 月 30 日をもって廃止となりました。同センターが管理している事務所スペース、会議室及びホール等の管理については、図書館が継承し、その活用等を下記のとおりとします。

### 【図書館が継承する施設】

#### <無料開放>

- ・フリースペース（旧市民活動支援センター事務所スペース）、ギャラリー、工房室、喫茶コーナー、中庭、くつろぎスペース

#### <使用料設定>

- ・ホール、スタジオ（ホール横）及び調整室、会議室、  
※施設利用の手続きは、図書館カウンターで行います。

### 【使用料】

- ・ホール、会議室、スタジオ・調整室の利用時間及び使用料は、従来どおりとする。

### 【利用の制限】

- ・指定する場所以外での飲食は不可とします。
- ・館内の静寂性を保つため、楽器の演奏等、音量の大きい催事は指定する場所以外では不可とします。

### 【フリースペースの利用方法】

- ・図書館のお話会の会場として利用します。
- ・展示スペースとして利用します。
- ・行政情報の広報スペースとして利用します。

# 野洲図書館本館 平面図



「フリースペース」(仮称)  
 (現在の市民活動支援センターの事務室スペース)

フリースペースとして活用。  
 開放型おはなし会、行政情報の広報の場、展示スペースとしても活用。

- 飲食を可とする指定場所**
- ・喫茶コーナー
  - ・くつろぎスペース
  - ・工房室
  - ・中庭

- 楽器等の演奏を可とする指定場所**
- ・ホール
  - ・スタジオ
  - ・会議室



野洲図書館 図書館の評価について評価項目(案)

	分野	項目	目標【H34 (2022年)】	目標 (H29)	備考	「提言」の該 当箇所	取組み方法	28年度 の実績	29年度の 実績	自己 評価	課題・問題等	外部 評価	外部評価の意見
1	貸出	貸出冊数（個人貸出、市民＋在勤者）	540,000	539,900		(1)～(11)	「PRの工夫」 ・ブックトークやおはなし会のときのPR（「お友達を誘って図書館へ」） ・ブックスタート時に、本を渡すだけでなく図書館の利用のメリットをPR ・市内施設へのチラシの配布 ・本庁ブックポストの存在感を上げる 「来館者と本との出会いのきっかけ作り」 ・特集コーナーを目立たせる ・中央特集コーナーの設置頻度を上げる（最低年6回） ・カウンターの「今日のおすすめ」 ・棚作り（棚内の表紙見せやPOPのような工	539,896	531,355	B	前年比△1.5%。長期的に微減傾向が続いている。未利用者への働きかけが必要。	C	・人口が減っていない中での貸出減少は大きな課題です ・取組みがPRの工夫だけでは寂しいです ⇒追加の取組みを検討願います
2	貸出	中主分館の貸出冊数（個人貸出、市民＋在勤者）	39,000	38,800		(1)～(11)	購入図書の内容見直しおよび本館の資料との入替え ”ない本でも借りられる”ことのPR 中主利用の利便性をあげる仕組みづくりの検討（ホームページからの在架資料への予約など ※例）中主で借りたいが本館にしか在架資料のない本への予約） 中主分館でのおはなし会の実施を検討	38,721	36,829	C	前年比△4.9%。NO1と共通の課題の他に蔵書の見直しが必要。	C	・中主分館はまだ認知度が低いと感じる ・中主分館こそPRが必要ではないですか ・中主分館でもお話を開いてはどうですか
3	貸出	人口一人当たり貸出冊数（合計）	12.8	12.7	他市と比較するときは市外の利用も含めた合計を人口で割ることが一般的。個人貸出合計/人口	(1)～(11)、(14)	①一般向け利用啓発のポスター（チラシ）作成②転入者向け簡易案内作成③市内の会社向けの利用案内作成	12.7	12.6	B	NO1と課題が同じ。取組の②は年度末に実施したため効果がまだ出ていない。③は作成済だが配布が未実施。	C	・目標自体が高い数値であることは理解しますが、目標未達であることから”C”判定とします
4	貸出	市の児童一人当たり貸出冊数（市民のうち児童）	12.5	12.3	市内の児童（0歳～12歳で積算）の貸出	(4) (5) (14)	①児童向け行事のチラシ作成②転入者向け簡易案内作成③学校・園に出向いた際に図書館の利用をPR④図書館HP内児童用ページの改訂⑤	12.2	12.6	A	一般の貸出の微減に対し、児童（0～12歳）の貸出冊数は横ばいまたは微増傾向にある。予定の取組みは30年度に実施予定。	A	・中主分館でもお話を開いてはどうですか

	分野	項目	目標【H34 (2022年)】	目標 (H29)	備考	「提言」の該 当箇所	取組み方法	28年度 の実績	29年度の 実績	自己 評価	課題・問題等	外部 評価	外部評価の意見
5	貸出	団体貸出冊数	27000	25,900	※H29上半期12223冊 H30上半期9951冊 年により、数値にバラつきが 出る。学校での運用に対する 機運の上がり下がりの影響が 大きい(先生が忙しく、よほ どのモチベーションがないと 難しい)。現時点で各校への 配本までは難しい。学童はコ ンスタントに利用している。 現在50冊までとしているが、 この制限を緩和すると棚の本 が少なくなってしまう恐れも ある。	(11)	団体貸出セット数の追 加等 読書活動推進講座での PR(学校・園対象)	25,574	28,068	A	利用が増えても要望 時期が重なって希望 に添えないことがな いように留意が必要。	A	・団体貸出の要望が活 発なようです ⇒H34の目標値を見直し を要望します
6	登録	市民の登録率	22%	21.8%	実利用者数/市の人口	(1) (14)	①一般向け利用啓発の ポスター(チラシ)作 成②転入者向け簡易案 内作成③市内の会社向 けの利用案内作成 ④ 小学校・中学校への登 録の働きかけの実施を 検討	21.7%	20.7%	C	NO1と課題が同じ。	C	・図書館を利用されて いない方へのアンケ ートを検討してはどうか (利用しない理由 を聞き、対策を検討す るため) ・小中学校への申込み の働きかけを検討願 います
7	登録	市民の新規登録者数	1,200人	1,180人		(1)	転入者への働きかけ ブックスタートにおい て赤ちゃんから登録可 能な点をPR 小学校・中学校への登 録の働きかけの実施を 検討	1,173人	1,028人	C	転入者用の案内を年 度末に作成したため 効果がまだ出ていな い。	C	・図書館を利用されて いない方へのアンケ ートを検討してはどうか (利用しない理由 を聞き、対策を検討す るため) ・小中学校への申込み の働きかけを検討願 います
8	問い合わせ	資料に関する問い合わせ件数、 レファレンスに関する認知度・満足度	件数：5,300件 認知度：60% 満足度：80%	件数：5,180件 認知度：50% 満足度：70%	※レファレンスに代わる用語 の検討(調べ物、そうだんな ど)	(3)	日常の窓口業務の目配 り、フロアワーク、アン ケート(認知度・満足度 を計る)	5,147件	5,474件 認知度： 49% 満足度： 92%	A	館内での案内は29年 度当初に数十枚設置 している。認知度を 更にするためには 別の手立てを考える 必要がある。	B	・“レファレンス”とい う言葉がわかりにく いために認知度が低 く出ているだけでは ない ⇒来年度はアンケート を工夫されてはどうか しょう
9	蔵書	郷土資料、地域資料の受入冊数	420冊/年 ※H28 371 H27 418 H26 592 H25 481 H24 303 H23 424 ☆H25以降、寄 贈の郷土資料の 受入れを推進し 冊数が上昇して いる。現在、受 入れが妥当かど うか微妙な資料 が多く残っている ため、このス トックの受入れ は減少傾向とな る見通し。	420冊/年		(2) (13)	市役所各課作成資料の収 集。市HP上の資料の受入 等。 ※取り組み方法について 現在検討中 ※資料が出るかどうかと いう外的な要因によ って受け入れ冊数が 変動するため、数 値は働きかけの 部分を強化する方 向で検討	371冊	414冊	A	30年度に各課への依 頼方法、収集方法 を見直す予定	B	・市役所の資料等云 わば身内の資料が 集められていない ⇒目標値が妥当か 確認が必要では ないですか

	分野	項目	目標【H34 (2022年)】	目標 (H29)	備考	「提言」の該 当箇所	取組み方法	28年度 の実績	29年度の 実績	自己 評価	課題・問題等	外部 評価	外部評価の意見
10	集会行事	おはなし会参加人数	3000人	2,750人	職員実施のおはなし会の参加 人数で積算	(4) (5)	チラシ等によるPRの工夫 養護学校などのおは なし会は実施済み。来 館の障害者団体へのお はなし会も実施(2ヶ 月に1回)。発達支援 センターのドリーム教 室通所者への読み聞か せも実施(移動図書館 や来館貸出し時) 取組みとは別に、開 催日の天候が参加者の 多寡にかなり影響を及 ぼす	2,727人	3437人	A	出張おはなし会の要 望が増えたため大き く伸びた。このう ち、館内でのお話会 は日曜の開催時間を 午前に変更したこと もあり、前年比94人 増。	A	・おはなし会への要望 が高いようです ⇒H34の目標値を見直し を要望します ・養護学校など今まで 読み聞かせに行ってい ない施設への読み聞か せも開拓されてはどうか
11	連携事業	関係機関、団体との連携事業 ※2018上半期 市機関との連動特集 設置7件 おはなし団体講演会2本	12回/年	7回/年	資料の特設や展示など。	(12) (13)	掲示板による呼びかけ 等	5回	17回	A	朗読会、生物多様性 の展示、ほか資料展 示14回。目標数値の 見直しが必要	A	・連携事業を活発に実 施いただいて評価でき ます ⇒H34の目標値の見直し を要望します
12	障がい者 サービス	郵送貸出、宅配の実利用者数	18人 (登録率1%)	3人	サービス対象の手帳保持・要介護 者：総計1733名 図書館利用カード登録者でサー ビス対象者数は不明 長浜市(人口119748人 市面積 539.48㎡ H28年度：郵送貸出 186冊 のべ88人、実利用者数10 人 宅配不明) 野洲市(人口51015人 面積80.14 ㎡ H30年度上半期実績：郵送 貸出99冊 のべ30人、宅配160冊 のべ13人、実利用：郵送貸出し3 人、宅配3人)	(8) (9)	HP等での広報、関係機 関へのPR等	-	3人	A	29年度は広報に1回掲 載、HP掲載した が、それ以外のPR を30年度から取組み 予定。	A	・実施するからには、 H34の目標値1%は低すぎ るように感じます ⇒H34の目標値の見直し を要望します

	分野	項目	目標【H34(2022年)】	目標(H29)	備考	「提言」の該当箇所	取組み方法	28年度の実績	29年度の実績	自己評価	課題・問題等	外部評価	外部評価の意見
13	待遇	職員の対応についての満足度	90%	85%	アンケートより：満足410(63%)、やや満足115(18%)、どちらでもない35(6%)、やや不満2(0%)、不満1(0%)、無回答85(13%)→満足+やや満足81% この項目に自由記述欄がないため、全体の自由記述より確認。ほぼ職員については好意的なコメントのみ。1件、「職員さんによってあまり対応してくれなかったという印象もあり」(レファレンスに関する自由記述より)というものがあつた。この件に関してはレファレンスインタビューの不足により要求と回答のミスマッチが発生したものであると思われるので、研修を行い改善を図りたい。経験の浅い司書に起こりがちな失敗であるといえる。 その他、待遇の改善も含め、しかるべきトレーニングを実施したい。	(15)	アンケートにより満足度を計る	-	81%	B	無回答が前回25年度の6%から14%へ上がっている。満足度は85%から81%へ減少。自由記述ではおおむね肯定的な感想が多いが、否定的な意見を参考に全職員の窓口対応を向上させるようつとめる。	C	・コメントが概ね良好なことで無回答が増えていることから、職員が回りに居るところでは職員の評価を書きにくいのではないのでしょうか ⇒アンケートのやり方の工夫が必要ではないでしょうか ・アンケートのコメントを確認いただき、改善への具体的な落とし込みと取組みを要望します

\* 図書館協議会の「提言」の番号は「提言」p6の「野洲図書館のこれからのサービスのあり方」の項目番号。

\* 上記目標に入っていない項目は(16)施設・設備(17)図書館情報システム。どちらも毎年検討し、予算化されたものは実施している。

評価基準(案)

A	目標を達成できた
B	目標をある程度達成できた
C	目標をあまり達成できなかった
D	目標をまったく達成できなかった

\* 評価の期間は5年。目標設定は5年後を設定し、それに向けて1年ごとの目標値を定め、毎年評価を実施する。

\* 評価の方法：図書館で自己評価を実施。(毎年4月末まで)それを元に、図書館協議会に外部評価を実施してもらう。

\* 平成29年度の評価は30年度に試行し見直し。本実施は30年度～34年度で作成する。

\* 貸出冊数に関する目標数値は社会的要因によるところも大きいいため、県内図書館の状況とも比較して評価を行う。(県内の公共図書館の平均数値との比較など)